

# 挑む大学

## 【iU】情報経営イノベーション専門職大学



中村伊知哉学長

# 全員インターン 全員起業 画期的な学びで未来を創る

### 情報分野の人材不足を解消したい

2020年に誕生した【iU】情報経営イノベーション専門職大学（東京・墨田区）は、全員が起業にチャレンジするなど、斬新なカリキュラムで注目を集めている。その実践的な教育を受けたいと、早くも野心あふれる学生たちが集い、先駆的な企業がそれを後押ししている。同学設立の発起人であり学長である中村伊知哉氏に、開学から1年半が経った現在の様子を聞いた。

専門職大学という制度は、2019年からスタートした。専門的な知識や技術を備えた「実践力」と、幅広い教養をベースにした「創造力」で、新たなプロジェクトやサービスを生み出す力を養うのが目的だ。

また専門職大学は、インターシップ等の実習科目を40単位以上修得することが卒業要件となっているのが特徴で、産業界や地域社会と密接に連携しながら、即戦力となる人材を育成する。端的に表せば専

門学校よりも理論的で、大学よりも実践的と言えるだろう。

情報経営イノベーション専門職大学（以下、iU）は、そんな専門職大学の制度を活用し、2020年に誕生した。インターシップは640時間用意しているほか、全学生が一度は起業にチャレンジするなど、独自性のある学びを用意している。

iUの設立を構想し、学長に就任した中村学長は、30年以上前から情報分野の

人材不足を憂っていた。その後、MITメディアラボ客員教授や、スタンフォード日本センター研究所長、慶應義塾大学大学院教授を歴任するなか、課題の根源は大学にあると感じるようになった。「産学が一体となつて教育をおこなひ、即戦力となるプロを育成。新しいモノづくりを生む土壌を、創る必要があると感じました」と話す中村学長。そんな折、専門職大学という制度ができ、自らの想いを周囲に訴えたところ、考えを一にする人たちの支持を得て開学の運びとなった。

iUは「ビジネス」「ICT」「グローバルコミュニケーション」という3つの柱を持っている。ビジネス」ではビジネスの基礎理論のほか、応用的な知識やスキルの修得を目指す。

意思疎通ができるよう、語学や交渉術の習得、多文化理解力を養う。

この3つを土台としつつ、1年〜4年を通しておこなうのが「イノベーションプロジェクト」という授



「イノベーションプロジェクトデモDay」のピッチを起点に、実際に起業する学生も現れている

うための論理的思考力やデータ分析力などを高めていく。

先月4日には、2年生にとって3回目となる「イノベーションプロジェクトデモDay」を開催。ビジネスピッチコンテストであるこのイベントには各クラスから選ばれた総勢20チームが参加し、投資家と起業家からなる審査員4名を前に起業プランを披露した。今回は初めて英語によるプレゼンとなったが、なかには非常に流暢に語りかけるチームもあった。

iUでは「プラットフォーム」を重視している。「先生」というのは禁止。学長のことも「伊知哉さん」と呼んでいるが、すでに「伊知哉さん、早く起業させてください」と訴えてくる学生がいるほか、イノベーションプロジェクトデモDayでは

「私たちのチームは登記することにしました」と発表するチームがあるなど、大学側が想定していたよりもスピード感や温度感は相当高い。「正直、ここまでできるとは思っていませんでした。学生のレベルの高さにプレッシャーを感じていて、いい意味で焦っています（笑）」と学長は漏らす。

数あった」などのコメントが寄せられた。今までは学生同士で協働をおこなってきたが、これは教授や企業との連携

がボーダレスに始まる。そのためハブとして、7月には「iU Lab」という研究所をオープンした。



デモDayの運営をはじめ、校内の各イベントは学生が中心となって運営される

業だ。起業にチャレンジするこのプロジェクトでは、投資家などにサービスやプロジェクトを紹介するピッチ（プレゼンテーション）を実施し、自らのアイデアを初見の相手に理解してもら



当面の目標に「就職率0%（全員起業）」を掲げるなど、型破りな大学づくりを進める。

内に闘志を秘めた学生たち

iUはコロナ禍での開学となったわけだが、中村学長が「コロナ禍はピンチかチャンスか？」と何人かの学生に問うたところ、皆「チャンスです」と答えたという。学生は家でゲームに没頭するようなタイプが多いものの、起業するマインドで入学している学生が多いこともあり、「何かを生み出したい」という闘志を内に秘めているようだ。

なかには慶應義塾大学に進学したものの、思っていた内容とは異なったためiUに入り直したという学生



3/4の学生は反対する親を説得して入学しているといい、さらにiUの理念に共感し、親子で入学するケースもあるという

や、親が喜ぶ大学に入ったが、iUのほうが面白そうだと思ってた。受けたという学生もいる。その一方で、親子が一緒に入学する家庭もあった。しかし概ね3/4は反対する親を説得して入学してきており、「今後はいかに親から勧められる大学になるかが課題です」と学長は話します。また、想定していた親の学び直しも顕在化していることから、今後はそうした教育も検討していきたいとしている。

意欲あふれる学生たちの主体性をさらに引き出したという、様々な行事は学生主導でおこなってもらっていて、大学説明会も学生が先頭に立っておこなっている。学長は「自分が話すよりも断然、説得力がありま

る。また『iUはここが課題』とか、『学長はもったいなく指摘さうあるべき』とか指摘さ

ることもあり、大学と一緒に創っている感覚がありますね」と話す。先ほどの

**10000人の指導体制を目指す**

iUの教員の数は4500人を超える。なかでも非常勤で指導する客員教員は約4000名いて、テレビ東京やMixシイ、Twitterなど、いずれも社会の第一線で活躍する人物ばかりだ。今後は教員の数をさらに増やしていく方針で、学生とほぼ同数となる10000人体制を目指す。試したいことが思いっきり試せるような環境を整えつつ、掲げているのが「**就職率0%（全員起業）**」だ。

ただ現実的なのは全員が起業家になるのは難しいと考

えており、現在提携している企業に就職する可能性が高いだろうとみている。iUとしては「デジタル業界に限らず、農業や建築といったあらゆる分野でイノベーター

と確信した中村学長は、iUが1つの場となり、これまで産学でできなかったことを着々と進めていきたいとしている。

墨田区とは協定を結んで良好な関係を構築しており、区内の小学校ではiU主催のプログラミング教室や運動会のライブ配信などをおこなっている。

さらにiUのすぐ近くには、千葉大学のデザイン教育の拠点となるキャンパスもできた。「デザインに課題を感じていた」という中村学長は今後、千葉大学との連携に期待を寄せている。また地元の人たちが自由



小学校の跡地を利用して建てられたiUのキャンパス

海外への針路も見出した

キャンパスを造るにあたっては様々な場所を探したが、ポップな雰囲気にしたかったという中村学長は東京にこだわった。「東京は欧米よりも断然ポップで、今、世界で一番熱い都市だと思っ

ています。これまでは23区のうち墨田区だけ大学がなく、ぜひとも大学を創ってほしいと熱烈的なアプローチがあった。文科省か

らは体育館が無いと大学として認められないと言われたが、墨田区は体育館を貸し出すと申し出てくれるなど好意的に協力をしてくれ、無事に設立することができた。

墨田区とは協定を結んで良好な関係を構築しており、区内の小学校ではiU主催のプログラミング教室や運動会のライブ配信などをおこなっている。

さらにiUのすぐ近くには、千葉大学のデザイン教育の拠点となるキャンパスもできた。「デザインに課題を感じていた」という中村学長は今後、千葉大学との連携に期待を寄せている。また地元の人たちが自由

に行き来できるように、キャンパスの周りには塀や壁を造っていない。コロナ禍が終われば近所の有志を募り、弁当やフードなどを出店で販売してもらおうと考えている。

ほかにも構想はいろいろあって、例えば現在は欧米やアジアなど約10の海外大学と提携しているが、今後は早い段階で100まで拡大し、海外で活躍できる仕組みを築きたい方針だ。

これからの担う人材に求められる力は、ビジネス、ICT、グローバルコミュニケーションであることは間違いないだろう。iUはそのうした力が育つ場であるだけでなく、ゲームやドローン、YouTubeなど、様々なモノづくりに取り組む人たちが集まる場でもあ

る。「東大、早慶を目指すのも1つかもしれないが、もしデジタル系のモノづくりに興味があれば、ぜひ門を叩いてみてください」と中村学長は訴える。

連携企業は250社以上

中村学長がiUの設立構想を打ち出したところ、ドコモや富士通など、名だたる企業30社ほどが真っ先に

名乗りを挙げ、現在では客員教員やインターンシップのために提携している企業数は250社を超える。



非常勤で指導する客員教員は約400名にのぼる。授業は実務的な内容を中心に展開される

なつたため、学生と客員教授、企業などが自由に交流できるよう、バーチャル研究室「iU mobile」をオープンした。